

# 今季の渡りダコの来遊は遅れるが、漁獲量は昨年を上回る見込み

(令和5年漁期のマダコの来遊・漁況予測)

## 1. マダコの生態と茨城県での漁業

常磐海域のマダコは、春から初夏に外房周辺で生まれ、北上暖水によって三陸南部付近までの広い範囲に分散して成長します。

茨城県では本県沿岸で成長した「地ダコ」と、本県より北で成長し、産卵のために秋から冬にかけて外房へ向けて南下する「渡りダコ」が漁獲対象となっています。

本県では、12月から翌年2月頃までがマダコ漁の盛漁期で、「たこつぼ漁」などで漁獲されます。特に鹿島灘での漁獲量が多く、鹿島灘で漁獲されたタコは「鹿島だこ」と称され、地域の特産品として知られています。

## 2. 昨年漁期の茨城県での漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響され、過去20年間の盛漁期（12月～翌年2月）の漁獲量は12～225トンと大きく変動しています。

昨年の盛漁期（R4年12月～R5年2月）「全漁法」の漁獲量は37トンで過去20年間で17位、「たこつぼ漁」の漁獲量は33トンで過去20年間で16位となり、不漁水準でした（図1）。

## 3. 今季のマダコ漁の予測

### (1) 来遊時期と水温の関係

本県への「渡りダコ」の来遊時期は、秋～冬に親潮系冷水が三陸～常磐海域を南下することと関連しています。現在、親潮に連なる親潮系冷水は黒潮に阻まれ、北緯40°付近に位置し、一部が沿岸沿いを南下し、仙台湾の水温は15～18℃台になっています。

また、黒潮が立ち上がっていることで、常磐海域の141°E以西の表面水温は比較的高い状態（17～20℃台）になっています（図2）。

### (2) 他県の漁模様

宮城県では、11月には令和2年を上回る漁模様になっており、福島県では、10月は昨年（令和4年）並みの漁模様でしたが、11月に入り漁模様が上向いてきています（図3）。

また、岩手県では10月のマダコの漁模様が比較的好調だったとのこと。

今年は、マダコ幼生が北上回遊する春頃、黒潮が強勢で「渡りダコ」となるマダコ資源が当該海域に分散しやすかったことが、岩手県や宮城県での漁獲に影響したものと考えられます。

### (3) 今季の盛漁期の来遊・漁況予測

常磐海域の水温は今のところ高いことから「渡りダコ」の本格来遊は遅れるものと考えられ、今後、水温が低下すれば「渡りダコ」の本格来遊が期待でき、中漁水準になると予測します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

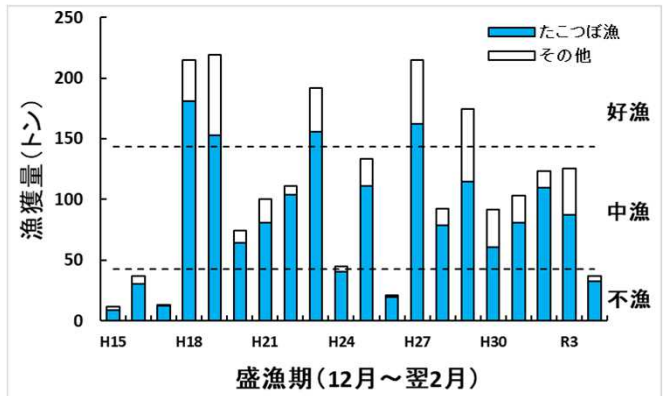


図1 茨城県の盛漁期（12月～翌2月）におけるマダコ漁獲量の年変化（全漁法）

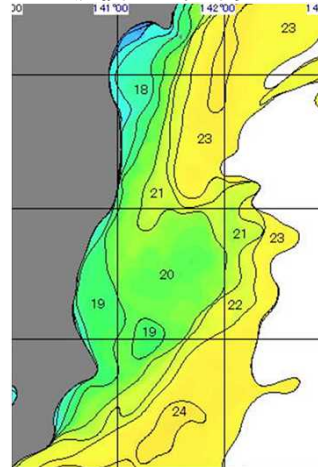


図2 11月29日のNOAA衛星画像

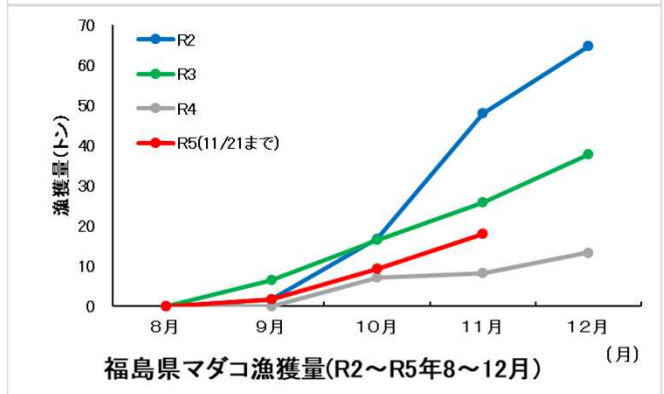
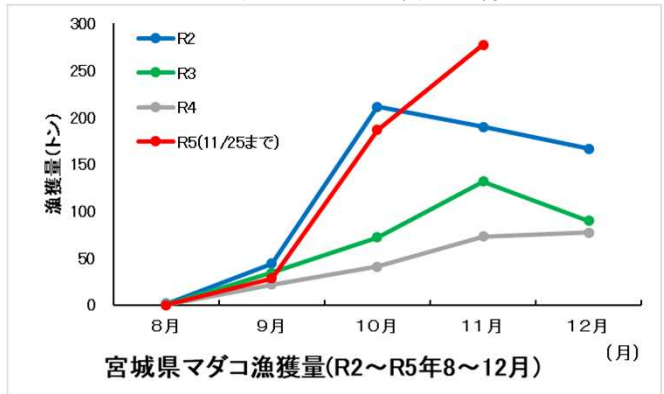


図3 R2～R5年8月～12月のマダコ水揚量  
(上段：宮城県「宮城水産ナビ」  
下段：福島県「福島県漁海況速報」)

[次号予告] R5.12.8.発行の「水産の窓」は、『令和5年度のアワビ漁況』を予定しています。